

# かみす

Pick up

- ▶ (仮称)神栖中央公園防災アリーナの名前を決めよう!
- ▶ 国体リハーサル大会観戦ガイド付き

特集

まちの魅力再発見

## 神栖の祭り勢ぞろい



広報かみすがリニューアル!  
 今まで以上に読みやすく、分かりやすい紙面  
 としました。特集は、まちの魅力を余すこ  
 るなく紹介。当たり前すぎて気づかなかつた  
 再発見が、きっとあるはず。  
 もっと神栖が好きになる広報紙です。

AR 広報かみすが  
 動き出す



[COCOAR2]

アプリをダウンロードし  
 表紙にスマートフォンを  
 かざしてください。  
 詳細は9ページ

特集

まちの魅力再発見

# 神栖の

# 祭り勢ぞろい

# かみす 舞つちやげ祭り

**日本全国** から集う参加者、江戸時代から受け継ぐ伝統、奥が深い。そこで、市内を代表する6つの祭りを一堂にご紹介します。知っているようで知らなかった、魅力を再発見してください。

関商工観光課 ☎ 0299-90-1217

全国に広まる、よさこい(YOSAKOI)まつりが、平成22年、神栖市に華々しく登場。またたく間に人気を集めました。現在は各種ダンスを加え、9月中旬の2日間、エネルギーあふれる演舞が観客を魅了します。



## 全国から60チームが集結

神栖中央公園で繰り広げられるよさこいと各種ダンスの祭典、その名も「かみす舞っちゃげ祭り」。踊り手と観客が、また参加するチーム同士が、お互いの垣根をぶっちゃげて(越えて)ひとつになります。

昨年は、地元を中心に全国から60チーム、約2000人の踊り手が参加。北海道の「夢想漣えさし」や「旭川北の大地」をはじめ、三重県の「安濃津よさこいHAPPY ARCHIVE」、岐阜県の「バサラ瑞浪」など、人気と実力を兼ね備えた有名チームも続々登場します。

## 躍動感あふれる演舞に感動

実行委員会会長の塙秀雄さんは、「ハイレベルな演舞を間近で見ると、躍動感、協調性、衣装・大旗から演出まですべてが素晴らしく、感動の一言。高揚感に包まれます。広大な神栖中央公園にはメインステージからストリートまで揃い、よさこい演舞に最適な会場です」と魅力を語ります。

かみす舞っちゃげ祭りは全国の踊り手からも好評で、市のイメージアップにつながっています。フィナーレを飾るのは、数百人がステージを埋め尽くす総乱舞。一度見たら熱烈なよさこいファンになり、「また来年も」と、毎年訪れる観客が増えています。

## 知名度を全国区に

「今年は神栖市の代表チーム『熱風』が結成されました。市を代表して札幌をはじめ県外の祭りに参加し、よさこい演舞を通して都市交流を育んでいく予定です」と意欲を語る塙さん。今年にはペパシニシャルチーム「怪物舞踏団」の参加も決定し、かみす舞っちゃげ祭りの知名度は全国区に、神栖観光の目玉となるイベントへと成長しています。





# 大潮祭

古くから漁業が盛んな波崎。江戸時代から継承されてきた「大潮祭」は、航海の安全と大漁、五穀豊穡を祈願する勇壮な祭りとして知られます。あばれ太鼓に先導されてまちを練り歩く神輿は圧巻です。

## 大切な手子后神社の祭祀

利根川河口の近くにある手子后神社は、波崎地域の氏神として住民のよりどころとなってきました。その手子后神社の例祭として、旧暦の6月15日に近い土曜・日曜に「大潮祭」が行われます。

手子后神社大潮祭礼実行委員会委員長の上野智道さんは、「大潮祭は、青少年育成と伝統文化の継承、そして手子后神社への感謝の表れとして代々受け継がれてきました。波崎地域の一年は大潮祭を中心に回る、と言えるほど大切な祭礼です」と意義を語ります。



## 荒波や凧なぎを神輿かみこで表現

初日の「宵宮よみみや」は、まちを練り歩いた神輿が手子后神社へ宮入り。翌日の「本宮ほんみや」では、手子后神社で御祈禱ごきとうの後、波崎漁港はまでお浜おり・お塩汲しおくみの儀を執り行います。



2日間にわたって練り歩く神輿は、子どもたちの鳴り物や迫力あるあばれ太鼓に先導されます。荒波や凧を表現する曲に合わせて、神輿も動と静の緩急をつけながら進むのが特徴です。

最大の見どころは、宵宮・本宮とも終盤に訪れます。「ここが見せ場」と担ぎ手が神輿に群がって荒々しくもみ合い、わき上

がる「よいい、よいやつせい」の掛け声。盛り上がりは最高潮に達します。

## 鳴り物は市の無形民俗文化財

はさきあばれ太鼓会の篠塚郁弥会長は「地域の子どもたち



ちは、大潮祭という晴れ舞台へ向けて、連日、鳴り物の練習をしています。成長したら、はさきあばれ太鼓会に入り、大潮祭を支えていってほしいですね」と若い担い手に期待を寄せています。

江戸時代から継承されてきた大潮祭が、百年後も二百年後もこの地にあり続けることが住民の願いです。

## 手子后神社



奈良時代(767年)創建、銚子大橋の近くにあり、御祭神は手子比売命——女性の神様です。古くから息栖神社・大洗磯前神社とともに鹿島神宮の三摂社といわれています。漁師からの信仰が厚く、大潮祭の日はお出漁せず、船に大漁旗をかかて、神社に参拝します。



**大野** 原地域の浜松公民館には、屋外に開かれたステージがついています。ここが「かみすみなと祭り」の拠点。7月の最終土曜・日曜に、神幸祭、まとい演舞、演芸大会など、さまざまな催しが繰り広げられます。

相談役の伊藤寛さんは「みなと祭りは昭和47年、鹿島港の開港を記念して“鹿島港まつり”として始まりました。地域の祭りは、思い出づくり、ふるさとづくりという大きな意味があります」と、長年、かみすみなと祭りを支えてきました。

地域への思いは、若い世代にしっかりと受け継がれています。人気のジャンケン大会とビンゴゲームは、中学生が運営。神輿の担ぎ手である神松会は、18歳から30代まで約70人もの会員がいます。実行委員会事務局長の草薙正良さんは、「参加するきっかけさえ用意すれば、子どもたちは一生懸命やってくれます。神松会の結束力も強いですよ」と、祭りには人を成長させる力があると言います。

一番の見どころは、歩行者天国を練り歩く山車パレードと神輿です。特に今年は、新調した神輿のお披露目とあって、神松会も気合い十分。目が離せません！



# かみすみなと祭り

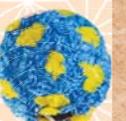


**旧暦** の七夕前後にあたる8月の最初の土曜・日曜、知手地域のすずらん通りと港南通りが七夕飾りで華やかに彩られます。テーマは「夢・郷土・人・ふれあい」。歩くだけでわくわくする、全長約1キロの歩行者天国。子ども神輿パレード、山車と神輿の巡行、盆踊りの行列…、すれ違うたび興奮に包まれます。沿道やステージでは、鹿島灘太鼓やよさこい演舞、カラオケ大会などが繰り広げられ賑わいます。

48年前、鹿島開発で一気に住民が増え、地域の一体感を育てようと盆踊りを開催したのが始まり。実行委員長の大槻和行さんは、「祭りは、地域の文化づくりになくてはならないもの。かみす七夕まつりは、鹿島開発から続く地域の発展を象徴するメインイベントです。再来年の第50回に向けて、神輿に七夕飾り、盆踊りをもっと盛大にしていきます」と意欲満々です。

市歌普及委員会の委員長として、盆踊りの新しい曲「神栖市の歌・市民音頭」の制作にも携った大槻さん。振り付けをみんなで練習し、かみす七夕まつりで披露しました。この新しい盆踊りを、市民へ広めていこうと取り組んでいます。飛び入り参加大歓迎。一緒に踊ってみませんか。

# かみす七夕まつり



# きらっせ祭り



8月 最後の日曜日、夏をしめくくる「きらっせ祭り」が開催されます。“きらっせ”とは、いらっしゃいという意味。34年前に始まった地域の祭りが、他県からの観光客も引き寄せる盛大な祭りに成長しました。波崎体育館駐車場をメイン会場に、豊ヶ浜運動公園から波崎漁港まで付近一帯が祭り一色。鳴物、手踊り、ブローカート、青空市、つみれ汁無料配布など、子どもからお年寄りまで楽しめる多彩なイベントが繰り広げられます。

最大の見どころは、みこしパレードと花火大会。実行委員会会長の篠塚栄一さんは、「この地域の皆さんは神輿が大好き。市内を練り歩く勇壮な姿に誘われて、どんどん人が集まります。会場が最高に盛り上がったところで花火がスタート。息つく暇もなく一気に打ち上げるから迫力満点ですよ」と胸を張ります。

祭り翌日の会場清掃では、「波崎第一中学校の生徒約100人も手伝いに来てくれて、感謝の一言に尽きます。子どもたちにとって自慢の祭りとなるよう、これからも頑張ります」と話す篠塚さん。地域の団結力を発揮して、祭りを盛り上げています。



# 神栖花火大会

神栖 花火大会はちょっと遅めの9月中旬、「かみす舞っちゃげ祭り」と同時開催されます。始まりは昭和48年、息栖大橋の開通祝賀花火大会です。昭和62年に、常陸利根川のほとりから神之池緑地へ会場を移転。平成23年から9月開催となり現在に至ります。

観光協会会長の山崎芳一さんは、「先輩方の尽力で45年間も続いてきた神栖花火大会は、地域の財産です」と大切に継承しています。

「神之池から打ち上げるので見通しもよく、花火を間近で見る迫力と臨場感が最大の魅力。多くの皆さんに体感してほしいですね」と話す山崎さん。

打ち上げ場所の神之池には、毎年、陸上自衛隊勝田駐屯地の協力で台船が組まれます。台船の設置は、災害で橋が崩落した際などに架橋する訓練を兼ねており、その珍しい作業風景は隠れた見どころといえるでしょう。

花火大会当日は、抽選会、大洗高校マーチングバンドの演奏など、打ち上げを待つ間も楽しみが盛りだくさんです。



# 神栖の祭り勢ぞろい

## うちの

# 祭り自慢

祭事を支える皆さんが一堂に勢ぞろい。「ココに注目!」「初めて見るならコレ!」といった楽しみ方をご紹介します。今年はずいぶん、神栖の祭りの奥深さに触れ、魅力を再発見してください。

### 大潮祭



宵宮 7/28(土)

本宮 7/29(日)

場所▶手子后神社・波崎東部地域

地域全体で支えてきた祭礼、そのすべてが自慢です。ずらりと並ぶ提灯が沿道を飾る風景も、見どころのひとつ。宵宮の終盤に神輿が鉾子大橋前を通るときと、本宮の終盤に宮入りする直前は、圧倒されますよ。“よーい、よいやっせい”の掛け声と一緒に盛り上がりましょう!

手子后神社大潮祭礼実行委員会委員長

上野智道さん



実行委員長  
大槻和行さん

### かみす七夕まつり

各商店が趣向を凝らした七夕飾りのもとを、神輿や山車、盆踊りが練り歩き、とにかく華やか。盆踊りも時代に合わせて新しくしました。人でいっぱいの歩行者天国を見るだけでうれしいけれど、みんなが“神栖市の歌・市民音頭”を一緒に踊ってくれたらもっとうれしいですね

8/4(土)・5(日)

場所▶知手地域



### かみすみなと祭り

7/28(土)・29(日)

場所▶大野原地域



みなと祭りの華は、迫力ある神輿と山車です。今年の目玉は、新しい神輿のお披露目。ピカピカの神輿と担ぎ手の勇姿を、間近で見るのが待ち遠しいですね。ほかにも、豪華賞品の当たるゲームもあるし、演芸大会への飛び入りも大歓迎。はりきって参加してください



実行委員会事務局長  
草薙正良さん

相談役  
伊藤 實さん

# かみす舞っちゃげ祭り



実行委員会会長 塙 秀雄さん

全国から集まる有名チームのよさこい演舞は圧巻。写真を撮る手が止まらなくなりますよ。また、初日に地元チームのコンテストを行います。大変な努力の成果であるエネルギッシュな演舞に、胸を打たれます。ぜひ会場に来て、踊り手の熱気を肌で感じてください



9/15(土)・16(日)

場所▶神栖中央公園

# きらっせ祭り



実行委員会会長 篠塚栄一さん

去年からメイン会場を波崎体育館駐車場に移しました。地域の団体が“一人一役”を合い言葉に、盛りだくさんのイベントを用意しています。今年もみこしパレードと花火は必見。45分間で8,000発を打ち上げるド迫力で、息つく暇もありません。お楽しみに！

8/26(日) ※雨天は花火大会のみ27日(月)

場所▶波崎体育館駐車場・波崎海水浴場周辺

# 神栖花火大会



観光協会会長 山崎芳一さん

昔から住民の皆さんに親しまれてきた、歴史ある花火大会。今はかみす舞っちゃげ祭りと同開催となり、花火大会で盛り上がりは最高潮に。間近で打ち上げられる6,000発の花火は迫力満点。多くの皆さんに臨場感を体感してほしいですね



9/15(土) ※雨天は16(日)

場所▶神之池緑地

## 広報かみすが動き出す

1 アプリをダウンロード・起動



[COCOAR2]



2 表紙にスマートフォンをかざす  
スペシャルムービーが楽しめる



広報かみすでは、ARがある写真にスマートフォンをかざすと動画が見られるARサービスを始めました。写真や記事と連動した動画が視聴できます。スマートフォンをお持ちの人は無料アプリCOCOAR2(ココアル2)をダウンロードし、ぜひお楽しみください。

※ARとは拡張現実(Augmented Reality)のこと。スマートフォンを使い現実の物や景色の上に、付加情報を表示する技術。COCOAR2は印刷物にスマートフォンをかざすことで動画やHPを見ることができるARアプリです ※ARの有効期間は発行後2カ月です ※詳しくは市ホームページをご覧ください